

英語暗唱大会 入賞者へインタビュー

先日、中学生を対象にした泉南地区英語暗唱大会がありました。泉南地区の中学校からそれぞれ代表者が出場し、3分程度で発話できる英語を暗唱し、発表する大会です。

一丘中学校からは、3年生の奥野さんが出場しました。奥野さんは泉南地区の大会で、入賞の10名に選ばれ、さらにその中で大阪府の暗唱大会に出場できる2名のうちの1人に選ばれました！



奥野さんは、**普段どのように英語に向き合い、どんなとりくみ方をしているのでしょうか。**とても気に入りだったので、今回、ご本人にインタビューをお願いしたところ、快く受けてくれました。

インタビューをして思ったことは、**奥野さんの姿勢や考え方が本当に素晴らしいということでした。奥野さんの周りの友だちや大人の支えについても、とても参考になりました。**右ページで、インタビューの様子をお伝えします！是非、御一読ください。



Education is the most powerful weapon which you can use to change the world.

教育とは、世界を変えるために使える最も強力な武器である。

ネルソン・マンデラ



(以下、GKT:G、奥野さん:お と記載)

G:こんにちは！

お:こんにちは！

G:暗唱大会はどうして出場しようと思ったのですか。

お:まずは教科書の例題で存在を知って、「おもしろそう」と思っていました。

そんな時に先生が誘ってくれたので。これまでたくさん、先生に「発音がきれい！」と褒められたのも大きいです。当日は緊張したけど、暗唱は得意なので楽しめました。

G:いっぱい練習したんじゃないですか。

お:ALT や先生、家族にも見てもらいながら繰り返し練習しました。家族には、「すごい！こんなに覚えられるんや！」と褒めてもらえてうれしかったです。

G:家族が結果だけじゃなくて過程を褒めてくれるのはうれしいよね！

大会に出るために準備する過程で何かそれまでの自分と変化はありましたか。

お:自信ができました。声や体で表現することの大事さにも気づきました。動画を撮って何度も自分をチェックする中で気づくこともあり、改善していきました。

G:すごい！自分に向き合うことがとても上手だと感じました！英語に対しての自信だけでなく、「表現すること」に対して自信を付けていることがうれしいです！

お:クラスメイトも時間をくれて、発表を見て褒めてくれました。それもすごくうれしかったです！

G:ここで1つアドバイスがほしい。英語が苦手、英語がキライという子は少なくないんだけど…。そんな子に向けて何かアドバイスをくれますか…？

お:確かに話すことは難しいです。でも伝わらないなりにどうにか伝えようと頑張ることは楽しいです。英語は「授業」って感じではなく、「人とのかかわりを増やすためのツール」と考えると、いろんな人との関係が広がって行って、気付けばそれが勉強につながっているはずですよ。

G:すごすぎる！とっても良いアドバイスをありがとうございます！！

話を聞いていると、周りの人に褒められたりすることもモチベーションにつながっているように感じました。

お:友だちや家族、先生がたくさん褒めてくれたのは大きいです。この前、全校生徒の前で発表したときは、さすがに本番より緊張しました。(笑)

G:それは想像しただけでも緊張するね。(笑)

最後に、このインタビュー記事は子どもだけじゃなく、たくさんの方が読んでくれます。その人たちにメッセージをお願いします！

お:英語の勉強を始めるのは早いほうが良いと言われますが、遅くても大丈夫です。英語を使う中でわからないこともたくさん出てきて不安になることもあると思いますが、たくさんの人とかかわって、たくさんの方の価値観に触れることができるツールだと思うので、あきらめないでほしいです。

G:本当にステキな話をありがとうございました。

